



# 普及だより たむら

No. 213

2015.10

編集・発行

福島県中農林事務所田村農業普及所

田村郡三春町大字熊耳字下荒井176-5

TEL (0247) 62-3113(代)

FAX (0247) 62-6069

ホームページ

田村農業普及所

検索

## 所長あいさつ



日頃より皆様には、農業普及事業にご理解、ご協力賜り厚く御礼申し上げます。4月より、所長として着任いたしました白石芳雄と申します。どうぞよろしく申し上げます。

田村地域においては、農用地の有効活用をはじめ、飼料用米等非主食用米の生産、低コスト化による稲作経営の改善や、園芸作物の振興、畜産の産地育成のほか、集落営農、新規就農者の育成などが急務となっています。今年度、「ふくしま農林水産業新生プラン」の実現に向け、現地での実態を踏まえ、新たに普及指導計画を策定しました。この計画は、「ひとづくり」、「ものづくり」、「地域づくり」の3つの視点毎の実施課題設定に、

営農再開地域を対象とした「震災対応課題」を加えたものになっております。

田村農業普及所職員一同、地域、農業者の皆様のお役に立てるように全力で取り組んで参りますので、皆様の変わらぬご理解、ご協力をお願いいたします。

## 田村の若い「農」ネットワーク

### 福島県農業賞を受賞しました!!



第56回福島県農業賞（集団活動部門・農村青年活動の部）を田村の若い「農」ネットワーク（以下、農ネット）が受賞し、9月4日に内堀知事より表彰を受けました。平成7年に田村市、三春町、小野町の青年農業者で設立され、現在会員は28名です。設立以来20年、農業経営者として自立を目指し、管内外でのさまざまな視察研修を主体にイベントでの農産物の直売、フレッシュ農業講座での小野高校生への講演、田村地方農業士協議会との新規就農者激励

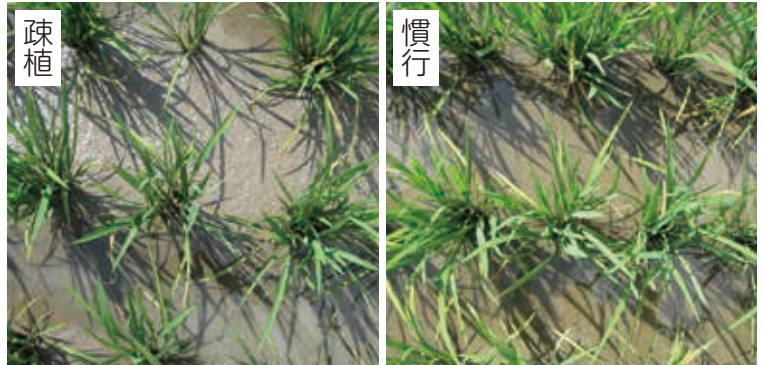
会の開催などにより、資質向上を図っています。また、その時期にあった情報機器を活用して農ネット会員相互の情報共有を行っています。

今回、こうした活動が評価され農業賞受賞となりました。これを機にますます会員の情報共有を密に、活発な活動を展開され、農業経営者としての自立と地域農業の発展に寄与されることを期待します。

### 米価下落に負けない稲作を☆

水稻は、田村地域の基幹品目の一つですが、価格が大幅に下落し、収益性が低くなっております。このため、田村農業普及所ではJAたむら稲作部会と連携して、今年度「低コスト稲作実証ほ」を設置し、米価下落に対応できる低コスト技術や多収技術の現地実証を行っています。最終的には収量・食味を調査し、田村地域での地域適合性について検討する予定です。

～取組箇所4カ所～  
**疎植栽培** 三春御祭・小野夏井・都路  
**元肥一発肥料** 田村市芦沢



写真：小野町の低コスト稲作実証ほの様子（左：疎植、右：慣行）

### 炭疽病からピーマンを守ろう♪三春町のピーマン防除団結成！



樋渡地区ピーマン防除団のみなさん

田村地域は県内一のピーマン産地ですが、高齢化等により農薬散布ができず、炭疽病により収穫の早期打ち切りとなるほ場が見られます。そこで、今年度新たに三春町樋渡地区のピーマン生産者5戸による共同防除がスタートしました！7～10日おきの農薬散布は、面積57aを2班に分けて作業を行うことで約2時間半で作業が終了します。また、今年は4～6月にかけて高温乾燥により水不足が続いたため、2回の株元かん水を共同で実施しました。その結果生育は順調で、病虫害

の発生も少なくなっています。生産者からは、自分で消毒するより効率がよい、薬液のムダが少ない、複数人数で農薬の調合を確認できるため誤使用がないなどの感想があがっており、今後も取組みを継続していきます。

### 注目の大豆新品種「里のほほえみ」をつくっています！

三春町蛇石のJAたむらの「試作ほ」において、品種特性（地域適応性）の検証に取り組んでいます。担当農家は、指導農業士の「壁谷和男」さん（船引町石森）です。



大豆「里のほほえみ」は、東北農業研究センターが育成した「大粒良質で高タンパク」の新品種で、東北、関東、北陸の各地で生産が伸びており、豆腐をはじめとした「日本食」の原料大豆として注目されています。当地方での適応性が高いことが実証されれば、「タチナガハ」に代わる主力品種として普及が期待されます。



# 今年も実施します。「米の全量全袋検査」!

## ○検査対象は「すべての米」です。

- ・出荷・販売する米及び自家用の「飯米」、親戚などに配る「縁故米」、販売される「ふるい下米」など、県内で収穫されたすべての米が検査の対象です。
- ・飼料用米も全量全袋検査の対象です。
- ・基準値を超える危険性は低くなってきていますが、自分で判断せずに、必ず、全量全袋検査を受けて、検査済みラベルが貼られた米袋だけを出荷・販売したり、「飯米」「縁故米」として利用するようにお願いします。



## ○「バーコードラベル」は確実に貼って下さい。

- ・平成27年度産米検査のラベルは、「オレンジ色」です。

## 牧草検査等に関する確認事項について

### ○野草・畦畔草・未更新草地の牧草は、利用自粛です。

絶対に給与しないでください。

- 除染した草地の永年生牧草は、必ず一度、県の検査を受け、暫定許容値（100ベクレル/kg）以下であることを確認してから給与してください。（検査申し込みは、田村農業普及所へ）

## ～たむらからはじめよう。～ 安全な農作業!



JAたむらと連携し開催した研修会

田村地域では、今年の春作業中に3件の農作業死亡事故が発生しました。

田村農業普及所では、(独)生研機構より研究者を招いて、事故原因の調査を行いました。

事故は、体調不良や気の緩み、機械の未整備、間違った操作等複数の原因が重なって始めて発生しています。

一つでも原因を無くせば、事故は防げます! 地域全員で農作業事故ゼロを目指しましょう!

## ★農作業事故を防ぐポイント★

防護具（ヘルメット、保護眼鏡）着用	二人以上で作業を
巻き込まれない服装で	体調万全で、あせらず
整備・点検は必ず実施	機械は正しく使用する
清掃等はエンジンを切って	トラクター転倒通報アプリ利用

# 新旧農業士紹介

## 退任者 ありがとうございました！



**郡司 嘉一さん (田村市滝根町)**  
 平成13年度から平成26年度までの13年間、指導農業士として青年農業者育成や地域の農業振興にご尽力いただきました。

## 新任者 よろしくお願ひします！

**指導農業士 陣野原 進さん (田村市滝根町)**  
 陣野原さんは32年間酪農経営を営み、家畜人工授精師として飼養管理等の指導を行う他、飼料生産組合を立ち上げ、地域農業の活性化に積極的に取り組まれています。今後も青年農業者育成と地域のリーダーとして活躍が期待されます。



**青年農業士 面川 仁さん (田村市船引町)**  
 面川さんは昨年まで田村の若い「農」ネットワークの会長を務め、また、経営者として肉用牛繁殖の他、肥育部門にも意欲的に取り組んでいます。地域の若いリーダーとして活躍が期待されます。

## 平成27年度 田村農業普及所 所内体制

**所長** 白石 芳雄  
**次長兼地域農業推進課長** 古川 勝弘

**地域農業推進課**  
 石塚 忠教 (作物)  
 鈴木 庄一 (畜産)  
 山崎 優美子 (花き)  
 山田 真孝 (作物)  
 石川 万里那 (作物)

**経営支援課**  
**課長** 大橋 金光 (野菜特産)  
 角田 明子 (畜産)      瀧田 誠一郎 (果樹)  
 佐藤 真 (野菜特産)      笠井 友美 (野菜特産)  
 柳内 柚香 (野菜特産)      大和田 清三 (野菜特産)